

鶴岡高専における主権者教育の取組み事例報告

「政治参加講座」を受講した学生のアンケート調査より

薄葉 祐子

(Received on Jan.10,2017)

1. はじめに

2015年6月、公職選挙法等の一部を改正する法律が成立し、選挙権年齢が「満20歳以上」から「満18歳以上」に引き下げられた。選挙権年齢の変更は1945年に「25歳以上の男子」から「20歳以上の男女」以来、70年ぶりのことである。施行後初めて公示された国政選挙が2016年7月10日の第24回参議院議員通常選挙（以後「第24回参院選」）であった。

近年、政治的無関心の高まりや、各種選挙における若年者層の投票率の低下が課題になっている。「18歳選挙権」をきっかけに若年者層の政治への関心が高まるよう、学校教育機関は学生の主権者教育に力を入れることが求められている。

本稿では、初めて18歳選挙権を得ることとなった鶴岡高専（以後「本校」）3年生の主権者意識を高め、かつ初めての選挙権行使を促すために実施した政治参加講座ならびにその後の第24回参院選の本校3年生の投票率についての報告を行う。

2. 鶴岡高専の主権者教育の取組み

(1) 授業「政治・経済」における取組み

本校3年生必修「政治・経済」の授業では、「選挙のしくみや政治参加の意義を理解する」ことを目的とし、教科書を用いて選挙制度や選挙の課題などを学習している。

また、政治参加の意義については、「若年者の政治無関心は高齢者向けの政策優先につながり、自分たちが求める支援・法制度の実施が後回しになるため、若年者の生活に不利」であることを、新聞記事などを題材にして重ねて説明している。

加えて、立候補者に関する情報収集の1つとして、実際に選挙管理委員会より発行された「選挙公報」を教

材に取り入れ、授業時間中に輪読し、自分の意見を述べる、ほかの学生の意見を聞くなどを行った。これにより学生は、政党名、立候補者名、立候補者の政策、政策から見える日本社会の課題などを把握することができた。

(2) 政治参加講座・模擬選挙の実施

本校では主権者教育の一環として2016年6月に「政治参加講座」を企画し、模擬選挙を実施した。目的は、学生の政治への関心を高め、本校3年学生の18歳選挙権の行使を促すことにあった。投票に関する「分からないことへの不安」を払しょくさせることが狙いであり、選挙に関する情報収集、投票したい立候補者の選択、投票など、投票にあたっての一連の流れを体験させた。

模擬選挙は実際の選挙の流れと同様、選挙（模擬選挙）の公示、選挙運動、投票、開票、開票結果発表の順に行った。公示は「政治・経済」の授業中に行い、選挙運動として教室に立候補者ポスター掲示、選挙公報の掲示を行った。

模擬選挙の実施は山形県鶴岡市選挙管理委員会の協力を得て、講演資料、実際の選挙で使用する投票用紙の提供、記載台、投票箱の貸出を受けた。

当日は、選挙に関する講演ならびに立候補者に扮した3名の教員が立候補演説をしたのち、学生は受付で投票用紙配布を受け、記帳台にて記入し投票箱へ投票を行った。開票は教員が行い、開票結果は「政治・経済」の授業時間に発表し、講評を行った。



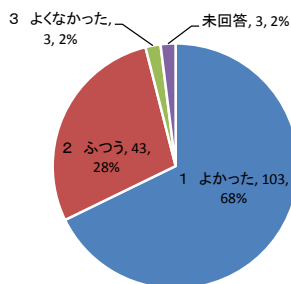
3. 政治参加講座・模擬選挙の結果

模擬投票に参加した本校3年生の人数は155名で、投票結果のうち、立候補者名が正しく記入していない票が4票、無記入が1票あった。

模擬選挙の実施後、アンケート調査を行った。模擬選挙の感想は約7割が「よかった」と回答している(図1)。「初めて選挙に行くので不安だったからとても良い経験になった」、「本番に向けて予習でき、行きやすくなった」、「本物を使って行うことができ、実際の投票をイメージできたから」、「18歳になり唐突に選挙権を得て、何をどうしたらいいか全然わからないところでこの講座は有難い」、「投票することで自分の意見を反映できているのが実感できたから」などの感想が挙げられた。

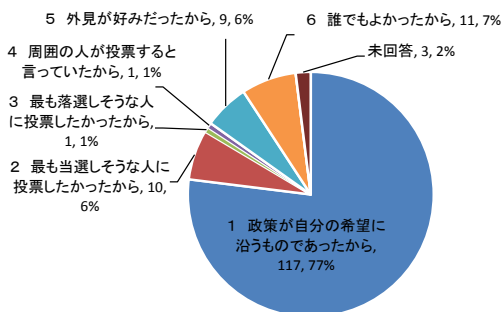
一方で「次々に人が来すぎて丸見えだった」、「もう少し、記入するときの雰囲気味わいたかった」という意見も挙げられ、投票の流れの確認だけでなく、投票所の雰囲気作りも工夫が必要であることが分かった。

図1 模擬選挙の感想



資料出所：筆者作成

図2 模擬投票であなたが投票した理由



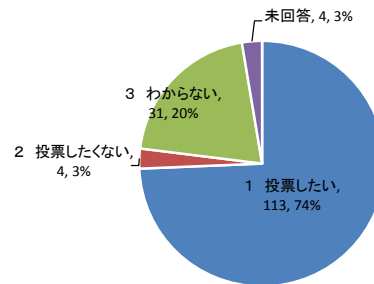
資料出所：筆者作成

投票理由については、「政策が自分の希望に沿うものであったから」が約8割を占め、掲示した選挙

公報や候補者演説を参考にしたことが伺える(図2)。

政治参加講座を受講して、約7割が実際の選挙で「投票したい」と回答している。一方で「(行くかどうか)わからない」と回答している学生も2割おり(図3)、そのような学生の政治意識を高める取り組みが必要である。

図3 7月10日の参議院選挙に投票したいか。



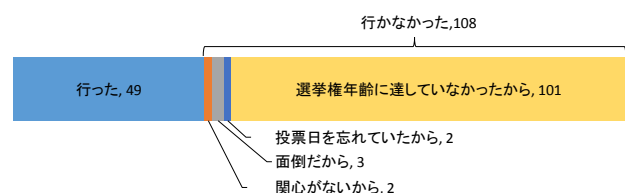
資料出所：筆者作成

自由意見として「もう少し事前から授業や特活などで政策などを話してもらえれば、もっと自分なりに考えて投票できたと思う」とあり、政治参加に対して学生の関心を高めるために、模擬選挙と言えども実際の選挙と同様の日程で公示や選挙運動を行ったほうがよいと思われる。また、「政策を掲示されたときに質疑応答が数点だけでも可能できるようにしてほしい」という意見もあり、立候補者(役)と学生が意見交換できる時間を設けることも検討したい。

4. 第24回参院選における学生の政治参加

2016年7月10日の第24回参院選に投票に行ったかどうかの事後アンケートを同年8月9日に実施した。回答者157人中、選挙権年齢に達していた学生は56名(35%)、選挙権年齢に達していなかった学生は101名(65%)であった(図4)。

図4 2016年7月の参議院議員通常選挙で、投票に行きましたか？



資料出所：筆者作成

選挙権年齢に達していた学生56名のうち投票へ「行った」と回答した学生は49名（87.5%）で、「行かなかった」と回答した学生は7名（12.5%）であった。アンケートから本校3年生（回答者157名）のうち、選挙権年齢に達していた学生の投票率は87.5%であった。

5. まとめ

第24回参院選における全年齢層の投票率は、全国54.7%（総務省選挙部2016）、山形県62.22%（山形県選挙管理委員会事務局2016）、鶴岡市61.23%（同）、であった。18歳の投票率は、全国51.28%（同）、鶴岡市47.32%（同）であるなか、本校3年生のうち18歳に達していた学生の投票率87.5%は際立って高い結果であった。

サンプル数は少ないながらも、政治参加講座の模擬選挙をとおして実際の投票の流れを理解し不安なく投票に行けたこと、投票への関心を高めることができたことが伺える結果となった。今後も初めて選挙権を持つことになる18歳の学生に、早い段階から政治参加講座を行うことは大変意義があると思われる。

参考資料

総務省選挙部（2016）「第24回参議院議員通常選挙における年齢別投票状況（抽出調査）」

http://www.soumu.go.jp/main_content/000440121.pdf（閲覧日2017.1.4）

山形県選挙管理委員会事務局（2016）「第24回参議院議員通常選挙 選挙結果のお知らせ 18歳・19歳投票率（市町村別、県計）」

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/910001/senkyokeka/h28san/18sai19saitouhyouritsu.xls>（閲覧日2017.1.4）